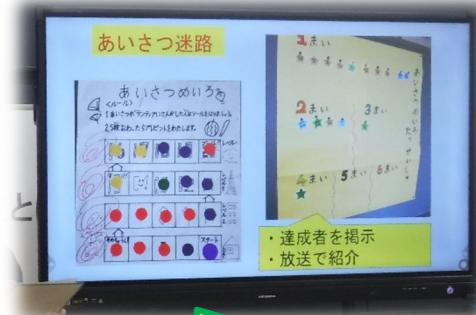


# テーマ 明日も来たくなる学校とは



市内小中学校の児童生徒の代表が一堂に会し、第19回魚津市子ども会議が開かれました。中学生の司会・進行で、前半は各学校の取組を発表しました。後半はテーマである「明日も来たくなる学校とは」について、グループで話し合いました。温かい雰囲気の中、自分の思いや考えを自由に伝え合う姿が印象的でした。話し合うことで自分の考えを広げ、よりよい学校にしたいという願いを共有することができました。



## 「明日も来たくなる学校」に向けての取組

自分の学校でやってみたい！

＜西部中学校＞ 生徒会のスローガン「安心」を達成するために、月間目標を設定し、振り返りを行った。振り返りをしっかりと行うことで、「安心」できる学校を目指した様々な活動が企画されるようになった。中学校では部活動以外で他学年と関わる機会が少ないので、異学年交流として「トランプ大会」や「紙飛行機大会」、体育大会や合唱祭に向けての対話的活動を行った。縦のつながりをつくることで、生徒会活動の活性化や学校全体で行事に向かう一体感のある雰囲気づくりにつながっている。

＜星の杜小学校＞ 「たいよう（助け合い、いつも明るく、よく笑う、うれしい・美しい）」を実現するために縦割り班活動に力を入れている。縦割り遊びや校内ウォークラリー、縦割り班掃除、さつまいも栽培等、学年を越えた関わりを通して、全校みんなの思いやり、責任感、協力する気持ちが高まっている。

＜清流小学校＞ 児童会スローガン「笑顔であいさつ あたたかい思いやりで 助け合う清流っ子」を目指した温かいあいさつと思いやりについてのポイントを、さわやか委員がミッションとして設定した。さらに、達成したミッションを輪にしてつなぎ、達成度を目に見える形にしたこと、取組への意欲につながっている。

＜経田小学校＞ 「笑顔いっぱいあいさつNo.1～心をつなごう経田っ子～」をスローガンとし、「ハイタッチあいさつ運動」に取り組んだことで、温かい気持ちが学校全体に広がった。さらにあいさつ運動を活性化するためにマスコットを募集したり、取組意欲が継続するようにあいさつ迷路を作成したりしている。

＜東部中学校＞ 「人権週間」にちなんで行った学級会では、「今の東中に必要な活動は何か」「学校で楽しいと感じる時間」について話し合った。その中の「他学年との交流を深めたい」という意見を基に、生徒会役員で「学級クイズ大会」を企画した。活動後のアンケートによると、9割の生徒は活動の趣旨を理解し満足しているようだった。しかし、残り1割の満足できなかった人がいることを真摯に受け止め、全員が「明日も来たくなる学校」を目指して、取組を改善しながら今後も継続していく。

＜よつば小学校＞ 「ぱかぱかわくわくでつながる学校」を目指して、「ぱかわく集会」と「わくわくタイム」を通した異学年交流に力を入れている。学年を越えたつながりが生まれたことで、上学年が下学年を温かく見守る意識が高まるとともに、異学年交流を楽しみにして登校する人が増えている。

＜道下小学校＞ 「思いやり」の心を広げたいという企画委員の思いから、昨年度の子ども会議で知った他校の取組を「ハッピーカード」と題し、取り入れることにした。心が温かくなるようなエピソードを集め、昼の校内放送で紹介することで、思いやりのある行動を意識する人が増えればよいなど願っている。

みんなで考えてみよう!!

みんなが楽しめるイベントを企画したいな。他校との交流も実現させたいな。

『いじめがない学校』『一人一人が自分に自信をもっている』『授業が楽しい、行事が楽しい』

『友達がいる』『他学年や地域、他校ともつながっている』など

一人一人、楽しみは違うと思うから、アンケートをとってみようかな。